2026年11月12日

各　位

会　社　名　ビープラッツ株式会社
代表者名　代表取締役社長　　藤　田　健　治
（コード番号：4381 東証グロース）
問合せ先　取締役副社長　　伊　藤　淳　一
（ TEL. 03-6262-9427）

営業外費用及び特別損失（減損損失）の計上、通期連結業績予想の修正並びに個別業績予想に関するお知らせ

当社は、2027年３月期の中間連結会計期間（2026年４月１日～2026年９月30日）において、下記のとおり営業外費用及び特別損失の計上を行うことになりましたのでお知らせするとともに、2026年５月14日に公表しました2027年３月期（2026年４月１日～2027年３月31日）の連結業績予想を下記のとおり修正しましたので、お知らせいたします。

なお、当社は、個別業績予想を開示しておりませんが、2027年３月期の個別業績の予想値につきまして、前年実績値との間に差異が生じる見込みであるため、併せてお知らせいたします。

記

1.　営業外費用の計上について

（１）支払利息の計上

支払利息4,139千円を営業外費用に計上いたしました。これは、国内の銀行等からの借入金に係る利息であります。

（２）社債利息の計上

社債利息2,262千円を営業外費用に計上いたしました。これは、第１回無担保転換社債型新株予約権付社債に係る利息であります。

（３）新株予約権発行費の計上

新株予約権発行費7,351千円を営業外費用に計上いたしました。これは、第７回新株予約権発行に伴う弁護士費用、第三者算定機関報酬費用、反社会的勢力調査費用、登記関連費用及びその他の費用であります。

（４）株式交付費の計上

株式交付費1,766千円を営業外費用に計上いたしました。これは、第６回及び第７回新株予約権の行使により発行された新株に係る登録免許税であります。

（５）その他費用の計上

その他費用1,370千円を営業外費用に計上いたしました。これは、前期以前において誤請求した売上金額を戻し入れ処理したこと等によるものです。

2.　特別損失（減損損失）の計上について

当社がサービス提供するITプラットフォーム「Bplats®」について、減損の兆候が認められ、「固定資産の減損に係る会計基準」 に基づき将来の回収可能性を保守的な前提のもとに検討した結果、対象となるソフトウエア仮勘定（無形固定資産）の帳簿価格を回収可能価額まで減額する必要が生じましたので、特別損失（減損損失）として87,448千円を計上いたしました。

3.　2027年３月期連結業績予想数値の修正（2026年４月1日～2027年３月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	１株当たり当期純利益
前回発表予想（A）(2026年５月14日発表)	百万円 698	百万円 62	百万円 43	百万円 42	円 銭 9.11 (注)
今回修正予想（B）	581	82	52	△35	△7.56 (注)
増減額（B－A）	△117	19	8	△77	―
増減率（%）	△16.7	30.2	19.8	―	―
（ご参考）前期実績（2026年３月期）	727	△126	△142	△925	△361.82

（注）業績予想の「1株当たり当期純利益」については、新株予約権の行使による新株式の発行の影響を考慮しております。

4.　2027年３月期個別業績予想数値（2026年４月1日～2027年３月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	１株当たり当期純利益
前期実績（A）	百万円 724	百万円 △128	百万円 △144	百万円 △926	円 銭 △362.33
今回業績予想（B）	578	79	52	△36	△7.77 (注)
増減額（B－A）	△146	207	196	890	―
増減率（%）	△20.1	―	―	―	―

（注）業績予想の「1株当たり当期純利益」については、新株予約権の行使による新株式の発行の影響を考慮しております。

5.　連結業績予想の修正及び個別業績における前年実績値と個別業績予想値の間に差異が生じる見込みとなった理由

＜連結業績予想修正の理由＞

（売上高）

当社において、ストック収入は堅調に推移し、期初予想を達成する見込みです（期初予想100.9%）。

スポット収入は、足元の環境も踏まえて、期初予想で見込んでいた程度には新規案件を受注できない見通しとなり、期初予想を大幅に下回る見込み（期初予想比52.1%）です。これらの結果により、売上高は前回予想を下回る見込みです。

（営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益）

売上原価及び販売費及び一般管理費は、通信インフラコスト、労務費・人件費・採用教育費、役員報酬等の各種コスト削減施策の強化及び推進が奏功し、売上原価と販売費及び一般管理費の合計値は期初予想を下回る見込みであることから、営業利益と経常利益は前回予想を上回る見込みです。親会社株主に帰属する当期純利益については、前述の減損損失の計上により、前回発表予想を大きく下回ることとなりました。

＜個別業績における前年実績値と個別業績予想値の間に差異が生じる見込みとなった理由＞

（売上高）

連結と同様の要因により、前期実績を下回る見込みです。

（営業利益、経常利益）

前連結会計年度にソフトウエア（無形固定資産）について減損処理したために減価償却費の計上が大きく減少したこと及び連結で記載のコスト削減施策効果を主因として、前期実績を大きく上回る見込みです。

（当期純利益）

前述の（営業利益、経常利益）の要因に加え、前期は特別損失として減損損失772百万円を計上していたため、当期の損失額は前期実績を大きく下回る見込みです。

（注）上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績等は今後発生する様々な要因により予想数値と異なる場合があります。

以上